

# (一部新) 少人数教育推進事業

当初予算主要事業 教育委員会 3頁  
 人材政策室 (224-2958)  
 【予算額 合計 1,338,135千円】

「少人数教育推進事業」の経過

目 標	実施年度	実 施 内 容
基本的な生活習慣や基礎・基本の学力の定着	平成15年度	小学校1年生における30人学級(下限25人)を実施
	平成16年度	小学校1、2年生における30人学級(下限25人)を実施
確かな学力の定着と生きる力の育成	平成17年度	中学校1年生における35人学級(下限25人)を実施
少人数教育の充実	平成18年度 平成19年度	教員の配置拡充、中学校35人学級の弾力的実施

平成20年度

## 少人数教育をより一層充実させるため

- 教員の配置拡充【定数20人→34人】
- 小学校1、2年生での30人学級(下限25人)の継続
- 中学校35人学級(下限25人)の弾力的実施の継続

- ① 教員の配置拡充 (定数34人、非常勤235人、512,216千円)  
 小中学校において、各学校の実情に応じ、少人数授業などの拡大をはかるため、教員の配置を拡充(小学校:20人→30人、中学校:0人→4人)し、きめ細かな少人数教育を一層推進します。
- ② 小学校1、2年生での30人学級の継続 (定数122人、530,334千円)  
 小学校1、2年生での30人を基準とした学級編制(ただし、下限25人)を継続して実施します。
- ③ 中学校での35人学級の弾力的実施の継続 (定数56人、非常勤30人、295,585千円)  
 中学校1年生での35人を基準とした学級編制(ただし、下限25人)を引き続き実施するとともに、各学校の実情に応じて、2年生あるいは3年生に弾力的に振り替えられる制度も継続します。

### 《期待する効果》

#### 生活面の効果

- ・新しい環境に早くとけ込み、楽しく学校へ行く。
- ・基本的な生活習慣が身につく、生活態度が落ち着く。
- ・児童生徒への声かけや気配りがよりきめ細かくできる。
- ・児童生徒や保護者と話をする機会が多くなり、児童生徒に対する理解が深まる。

#### 学習面の効果

- ・自ら学習する習慣がより身につく。
- ・細かいところまで丁寧に扱われる。
- ・基礎・基本の学力の定着がはかれる。
- ・授業が落ち着き、児童生徒の一人ひとりにいきとどいた指導ができる。

保護者  
教員